

献辞

田中登先生は、この三月末に定年を迎えられ、関西大学をご勇退される。平成八年にご着任され、実に二十四年の長きにわたり、第一線でご活躍された。

先生のご学問は古筆学に代表される。翻って申せば、古筆学とはすなわち田中中学である。田中先生は古筆学を代表する碩学である。主著『古筆切の国文学的研究』（平成九年・風間書房）や『平成新修古筆資料集 全五集』（平成十二年～平成二十二年、更に補訂稿が続く・思文閣出版）をはじめとして、著書・編書多数である。古書肆や骨董屋を巡り歩いて、掘り起こされた数々の新資料を縦横に駆使して田中先生の高みに至られたのであろう。そのご学問は関西大学の学問となり、これからも長く継承されることとなるだろう。その意味で関西大学国語国文学専修にとつて恩人である。幾重にも篤く御礼申し上げます。

また学内業務においても、文学部学生相談主事・国語国文学専修代表・関西大学図書館長・関西大学協議会協議員など要職を歴任され、関西大学のためにも多大なるご貢献をされた。

一方そのご講義は大変専門的で格調高いにもかかわらず、一流の機知や諧謔に富んだ洒脱なもので、学生・大学院生を魅了された。このようにして自らお育てになった学生・大学院生・大学院修了者に囲まれておられる田中先生であるが、皆々この度のご退職を残念に受け止めている。定めであるので受け入れざるを得ないが、先生のご研究の発展とご健勝をお祈りするばかりである。更にこれからも後進をお導きください。そしてご多幸を祈り上げます。